

父と私の レアなドライブ

ファイナンシャルプランナー

須藤 臣



道東の斜里岳のすそ野にある清里町に両親が暮らしている。81歳の父は、いまだにハンドルを握る現役のシルバードライバーだ。

道東は、知床国立公園や阿寒国立公園など見どころ盛りだくさんの地。実家に行くと、山や温泉、湖などいろいろなところへ連れて行ってくれる。もちろん運転は父。たとえ私が運転しようとしても、「お前の運転はおっかない」といって運転させてくれない。まずは、父と私のちょっとレアな一日ドライブのコースを紹介。

斜里町から車で15分ほどのところに、湧き水の出ている来運公園がある。斜里岳からの恵みの水だ。水は夏でもヒヤッとするくらい冷たくて美味しい。来運の湧き水を飲むと、その名のとおり「運が来て、良いことがあり希望が叶う」そうだ。宝くじや馬券を買う前に飲んでおくと、効き目があるかも知れない。ちなみに実家の水道水は、摩周湖近くの湧水が水源になっている。蛇口をひねったら摩周湖の湧水が出るということ。だから、やっぱり贅沢なほどこちらも美味しい。

斜里町の越川から根北峠に向かう途中には、巨大なコンクリート橋がある。これは、有形文化財になっている旧国鉄根北線越川橋梁。戦争で工事が中断されたままの鉄橋だ。この鉄橋工事では、当時過酷な労働を強いられた人が大勢亡くなったという。そんなことを聞くと、美しいアーチ型の鉄橋が悲しげに見える。

釧路のタクシー運転手さんが、根北峠を越えて

斜里でお客さんを降ろした後に、真っ暗になったこの鉄橋付近を一人で通って帰るのが怖くなり、とうとう斜里町に一泊したと、話していたのを思い出した。人里離れた寂しげな道だから、通るならやっぱり明るいうちがいいだろう。

清里町から弟子屈町へ続く野上峠を下ると間もなく川湯。川湯ではまずは硫黄山に立ち寄り、ゆで卵を食べながら一休み。硫黄山の地肌から噴出す蒸気でゆでられた卵は、一個食べると10年長生きするのだとか。父は、これまでに数えきれないくらい食べたからこんなに元気で長生きしているのかも知れない。

硫黄山からは、川湯温泉の中心部にある足湯へ。郵便局の向かいなので分かりやすい。ここは、源泉が流れるちょっと熱めのお湯。木製のベンチに腰掛けて足をつけていると、じわじわと全身が温まってきてとても気持ちがいい。そういえば、幼い頃、硫黄を含んだ川湯温泉に入ると色白の美人になると聞かされ、のぼせるほどお湯に浸かっていたっけ。だから今でも、本当は足ではなく顔をつけたいのだが。

川湯から野上峠を戻って、ちょっと神の子池まで寄り道。摩周湖の伏流水でできた神の子池は、いつも吸い込まれそうなくらい透き通っている。次は父の一番のお気に入りの場所へ。それは、緑の山奥にある緑ダム。観光客が来るところでもなく、初めて連れて行かれたときはそこにダムが造られていることさえも知らなかった。父は20年以上前からこのダムに関心を持っていたようだ。展

望台に登ってダムを見下ろすと、その規模の大きさが分かる。

「このダムは網走とか小清水、斜里、清里の農業用で作ったんだ。コンクリートじゃなく土できているのがすごい！」などと、まるで観光ガイドのようにいろいろ説明してくれる。

ダム見学から帰って一休みした後は、パークゴルフをするのが、いつものお決まりのコース。清里町には、清里の「緑清荘」、札弦の「パパスランド」、緑の「緑の湯」の三つの温泉施設がある。70歳以上の町民は、町内の温泉を年間24回まで無料で利用できる福祉入浴券をもらえることになっている。高齢者に優しい町だ。

この三つの温泉施設にはそれぞれにパークゴルフ場が併設されていて、どれも無料で利用できる。クラブとボールも無料で貸してくれるので手ぶらで遊ぶことができる。父は、しょっちゅうコースを回っているの、とても上手い。もちろん、ホールインワンも何度か経験している(らしい)。私は、何度回っても一度も父に勝ったことがない。振り方が悪いだの、強すぎるだのとアドバイスを受けながら一緒に回る。

湧き水、硫黄山、足湯、ダム見学、そしてパークゴルフ。ここで生まれ育った私の知らないところを見つけては、そこに連れて行くのが父の楽しみようだ。ところで、こんなに遊んでもガソリ

ン代以外の出費はほとんどない。そう、父の案内してくれるのは、全部タダのところばかりだから。

今年の秋、父は胃がんで胃を3分の2切除する手術を受けた。81歳で生まれて初めての入院だった。入院中に父が最も心配していたのは、入院中に期限が来る運転免許証の更新のこと。70歳以上の高齢者の更新は、運転適性検査と実技講習を3時間も受けなければならない。入院証明書を提出すれば失効しないのだが、それでも心配だったようだ。

早く普通の生活に戻りたい一心で、手術の翌日に父は歩き始めた。その甲斐あって予定より少し早めに退院できた父は、無事に高齢者講習を受けることができた。

今では、体力も徐々に回復してきて、毎日のように大好きな車の運転をしている。今度のドライブこそは、私に運転させてくれるといいのだが…。

須藤 臣 (すどう とみ)

Profile

北海道生まれ。北海道銀行、大手不動産会社勤務の後、1996年からフリーのファイナンシャルプランナーとなり、講演活動や執筆、テレビ・ラジオでのコメンテーターとして生活経済全般のアドバイスをしている。



旧国鉄根北線越川橋梁 (第一幾品川橋梁)